

看護の役割の重要性と課題を加盟国と共有し、解決に向けた基盤を構築

WHO西太平洋地域事務局Nursing Officer

安西 恵梨子



看護師、保健師。慶應義塾大学看護医療学部卒業、Queensland University of Technology (Master of Nursing)修了。病院勤務で政策の重要性を実感し、日本看護協会に就職。2022年6月よりWPROに出向。

日本看護協会から WHO 西太平洋地域事務局への出向

日本看護協会では看護師の業務や教育等に関する政策提言等に携わった後、2022年6月よりWHO西太平洋地域事務局(WPRO) Division of Health Systems and Servicesに出向し、Nursing officerとして勤務しています。日本看護協会から国際機関への出向は例がありませんでしたが、WPROには長らく看護を担当するポストがなかったことから、日本看護協会では出向者を派遣することで、この地域の看護のさらなる発展に貢献していくこととしました。

初めての国、新しい組織、新しいポスト

赴任して最初に驚いたのはフィリピン・マニラの貧富の格差でした。WPRO周辺ではタワーマンション前の路上に、衣食住もままならず、衛生状態も懸念されるような状況で多くの人々が暮らしています。これまで訪れたどこの国とも異なる街の雰囲気には驚きました。

WHOで働き始めた当初、組織文化の違いにも戸惑いました。例えば、日本では複数の職員で案件を担当し、新しい職員は徐々に組織のルールや仕事の進め方を理解・習得していましたが、WHOでは各職員が異なる専門領域を持ち、入職時からその分野を自身で進めていくことが求められ、出向者も同様です。看護担当は1人のため、着任後すぐに外部との会議で発言を求められたり、講演を行ったりと責任の重さに戸惑いました。また、ポス

トの継続が見通せなかったため、2年間でこの地域の看護の現状を分析し、改善に向けた計画を立案・実施するというのも難題でした。

WPROのNursing Officerの役割

WHOでは2020年に看護¹、2021年に助産²の世界的な状況について報告書を公表するとともに、看護職がユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)やその他の保健に関する目標達成に最大限、貢献できるよう、各国が取り組むべき優先政策をまとめたThe Global Strategic Directions for Nursing and Midwifery 2021-2025³を加盟国によって採択しています。Nursing Officerの役割は地域によって異なりますが、WPROではUHC達成や高齢化などの課題に最大限、看護職が貢献できるよう、エビデンスに基づき、

看護・助産制度に関する活動を支援することです。加盟国からのリクエストに基づき、看護師法の改正や看護に関する国家戦略の立案等を国事務所とともに支援する直接支援と、地域全体の看護を強化する取組みに大別されます。

看護師の役割の重要性と課題を明文化し、加盟国と共有

着任後よりWHOの本部や他の地域事務局のNursing Officer、西太平洋地域の加盟国の看護行政官やWHO協力センター、看護協会等、さまざまな関係者から話を聞くとともに、文献やデータに目を通し、現状分析を進めました。西太平洋地域には37の国と地域が属し、世界の4分の1以上を占める約19億人が暮らしています。国の大きさや経済状況、文化的な背景も多様です。一方で平均寿命が



フィジーで開催されたPacific Head of Nursing and Midwiferyでkeynote speechを担当。最前列中央が筆者。

延び、高齢化が進み、生活習慣病対策や災害への備えが喫緊の課題である等の共通点もあります。程度の差はありつつも、各国が抱えている看護の課題も共通していました。人材確保、労働環境・処遇の改善、質の向上（基礎教育・卒後教育）、業務範囲の最大限の活用と適正化、課題解決に向けたリーダーシップ強化等、これらは日本と同様、加盟国でも課題となっていました。

西太平洋地域では UHC の達成に向け、健康危機や NCDs（非感染性疾患）、プライマリ・ヘルス・ケア推進等の取組みが進められています。しかし、医療専門職の約 7 割¹を占め、多くの現場で実際にそれらに対応する看護師については、地域レベルの取組みは行われていませんでした。また、コロナ禍で看護師の量及び質の確保が医療提供に不可欠であることが改めて示されたにもかかわらず、看護の課題解決は進むどころか悪化している状況にありました。コロナ禍の負担の大きさから離職したり、より良い労働環境を求めて他国に移住する看護師が増加し、国を超えた看護師争奪戦が激化しています。中低所得国の中には、多数の看護師が退職し、地域医療に影響が出始めているところもあります。同時に、加盟国の看護行政官からは、多くの保健医療課題の中で看護に優先的に取り組むという政府・保健省内での合意形成が難しいという声も聞きます。そこで、WHO として各国の看護行政官が課題解決に取り組むことを後押しするような取組みが必要だと考えました。



カナダで開催された ICN (International Council of Nurses) Congress のシンポジウムで西太平洋地域の看護の現状と課題、解決に向けた取り組みを紹介。

保健医療人材フレームワークで「看護師は UHC 達成に重要な立役者」と強調

着任当時、WPRO では保健医療人材の強化に向けたフレームワークの作成に着手したところでした。私もチームに加わり、看護師の現状や課題等を盛り込んでいきました。一般的に、保健医療人材フレームワークで特定の職種に焦点を当てることはないようですが、「看護師は UHC 達成に重要な立役者」とであると強調し、加盟国において特に必要な看護の取組みも記載しました。そのためには、多くの職種の中で看護師のみを特記する必要性について理解を得る必要があり、難しい局面にも遭遇しました。また、西太平洋地域全体での取組みとして、加盟国が看護政策の好事例や課題を共有し、解決策を議論するプラットフォームを設置することも提言しました。

2023 年 10 月に開催された第 74 回 WHO 西太平洋地域委員会では、加盟国によって Regional Framework to Shape a Health Workforce for the Future of the Western Pacific が採択され、看護師の役割の重要性や課題、解決の必要性を加盟国と共有することができました。会議では、保健医療人材、特にその多くを占める看護師がヘルスシステムにおいてとても重要な存在でありながら、現在、危



WPRO のプライマリ・ヘルス・ケア・ワークショップでソロモン諸島及びサモアの看護師と。

機的な状況にあり、本フレームワークを歓迎する意見が多くの加盟国から出されました。加えて、2024 年 2 月には WHO 西太平洋地域・看護・助産フォーラムを開催することとなりました。

成果と今後に向けて

新たな環境・組織に戸惑い、力不足を感じる場面が多かった 1 年半でしたが、多くの方々の支援をいただき、WPRO で「保健医療人材」に括られていた「看護師」を取り組むべき重要な 1 つの分野だと明示し、加盟国と方向性を共有し、今後の取組みの基盤を構築することができました。身近なところでは、当初、私のことを保健医療人材担当者のサポート役と捉えていた医療経済学者の上司が、自身の言葉で看護師の役割の重要性や課題を語ってくれるようになりました。また、様々な場で講演をする機会をいただき、WHO の方向性や看護の取組みへの理解が広がり、各国で課題解決に取り組む際の拠り所としての活用が広がることが期待されます。

今後は、加盟国において看護行政官が看護師やその活動を支援・発展させる仕組みづくりに取り組む上で有用な情報交換・議論の場となるよう、西太平洋地域・看護・助産フォーラムの準備を進めます。さらに、その議論や成果をまとめることで、WPRO での看護の取組みがさらに強化されるよう、残りの任期を務めていきます。

出向及び活動を支援してくださった皆様はこの場を借りて深くお礼を申し上げます。

参考文献

1. WHO. (2020). State of the World's Nursing 2020: Investing in education, jobs & leadership.
2. UNFPA, WHO & ICM. (2021). The State of the World's Midwifery 2021.
3. WHO. (2021). The Global Strategic Directions for Nursing and Midwifery 2021 - 2025.